

秋田公立美術大学大学院

複合芸術研究科

二〇二二年度 修士課程／博士課程 学生募集

社会と文化の関係性の変容のなかで領域と役割の拡大が続く現代の創造的諸分野を「複合芸術」の視座と実践を通して研究する、世界で唯一の美術系大学院。

GRADUATE SCHOOL OF TRANSDISCIPLINARY ARTS, AKITA UNIVERSITY OF ART

2022 APPLICATION GUIDELINES: MASTER'S PROGRAM AND DOCTORAL PROGRAM

We are the internationally only one graduate school of art, researching diverse contemporary creative fields which is expanding its area and role under the transformation of relationship of society and culture, through the aspect and practice of “Transdisciplinary Arts”.

www.akibi.ac.jp/daigakuin/

「複合芸術」の視座から創造的諸領域を研究する

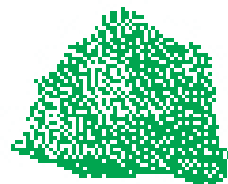
世界で唯一の美術系大学院

秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科は、社会と文化の関係性の変容のなかで領域と役割の拡大が続く現代の創造的諸分野を「複合芸術(Transdisciplinary Arts)」の視座と実践を通して研究する、世界で唯一の美術系大学院です。

本研究科の考える「複合芸術」とは、単に複数の表現技法や素材が集合・統合されることを意味するものではありません。自らが専門としてきた領域の外部に越境し他の異なる領域の実践手法を学び自らの活動に組み込むこと、そして既存の事物や現象を複合的に構成する諸要素の関係性を点検しそれらを現代と未来の立場から再配置することを通して表現領域と社会の新たな可能性を創出する取り組みの全体系を、私たちは「複合芸術」と考えます。

修士課程、博士課程ともに、本研究科では学生それぞれの専門性と研究テーマに立脚しつつ、複合芸術研究を自身の技術や資質を他の専門領域との交わりを通して拡張させる「内的運動」と、外部の社会に介入しそこにある諸要素の複合を積極的に推し進める「外的運動」の並走によって実現させていきます。前者では、素材・技術・手法の尽きることのない複合の試みを通して新たな表現者の力が提案され、後者からは、潜在的な社会的課題が発見されながら新しい役割と社会のかたちが提示されます。専門分化した芸術各領域の「型(かた)」を認めつつ、それを積極的にはぐらかし解体する自由で柔軟な想像力と、新たな表現領域や社会的価値の創造の上に、複合芸術は成立すると考えます。

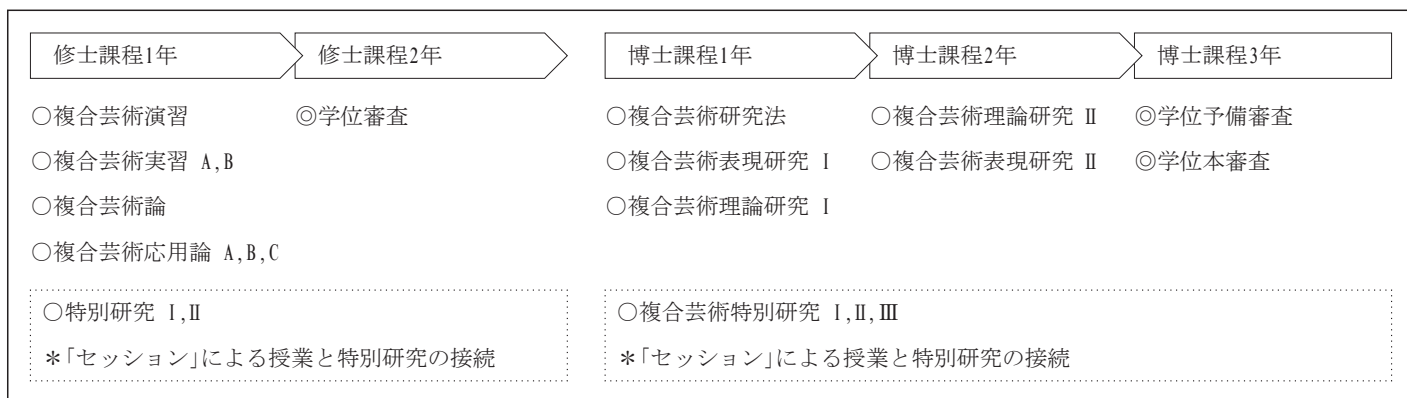
本研究科では、専門領域の異なる複数の教員と学生が主体的に交流して学生一人一人の研究の形を育むチームティーチングの指導形式(本研究科ではこれを「セッション」と呼びます)を採用しています。カリキュラムは、芸術の要素複合を異なる専門領域の立場から紹介する「講義」、多様な創造領域の理念や手法の複合可能性を経験・検討する「演習」、学外の地域や組織と連携・協働して社会実践をおこなう「実習」、そして学生各自の研究テーマで取り組む「特別研究」により構成されます。学生は「セッション」による複合芸術の学びを通して、個人研究を自らの内外に広く深く展開・実現させていきます。



修士課程および博士課程のカリキュラム

本研究科修士課程のカリキュラムは、現代の創造領域の実践を支える要素や条件の「複合性」の多様なあり方を理解し深く考察することを目的として、様々な領域の事例と理論を学ぶ「講義」、複合の視点から研究の技法を経験する「演習」、それらの学びの成果を踏まえて学

外の社会と連携協働する「実習」を通して、学生各自が自身の研究を深く掘り下げて実践させることのできる構成と内容となっています。なお、それぞれの指導は、「複数形の学び」「異なる知の交流」を重視したチームティーチング(「セッション」)の形式で進められます。

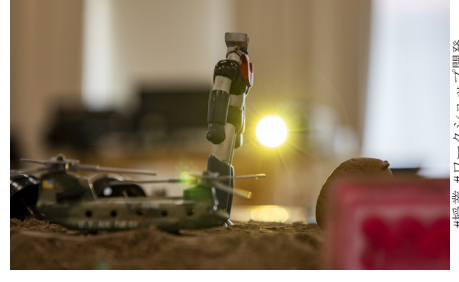




#フィールドワーク #田沢湖



#フィールドワーク #小屋建造



#授業 #ワークショップ開発



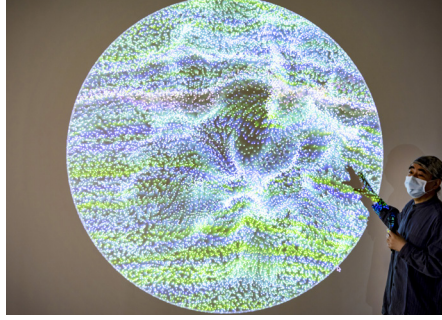
#授業 #インタラクティブデザイン



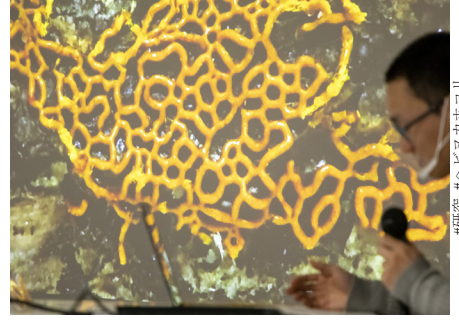
#フィールドワーク #カガミ山



#授業 #プロトタイプングメソッド



#授業 #シュエネーティブアート



#研究 #ヘビスカホコリ

ACTIVITY



#フィールドワーク #ネコハリ岩



#授業 #焚き火屋さん



#授業 #撮影実験班



#授業 #酒の会



#授業 #卒(スラグ)

在学生の声

境界なき学びのなかで
境界について思考する



「渚」をテーマにした映像作品

これまでは、映像関係の分野を学び、特にゲーム作品やインタラクティブアートの制作に取り組んできました。学部時代の卒業制作では、幼い頃より自然や生き物に親しんできたことからバイオアートの制作に取り組み、そこで、粘菌という生物を扱った作品を制作しました。粘菌は、私にとって非常に興味深い存在です。アメーバのような姿で森の中を動き回り、子孫を残すときにはキノコのように無数の胞子を風にのせて飛ばします。その生態は、動物と隠花植物の境界に位置しているようにも思われます。また、粘菌は単細胞生物でありながら複雑な迷路の最短距離を選択することができるなど、生物学だけでなくコンピューターサイエンスなど幅広い学問分野から分析することができる面白さがあります。

修士課程の研究・制作では「境界領域」を一つのテーマとして設定しています。哲学や心理学、人類学の分野を中心に学びながら「他者と自分との境界」「自然界に存在する境界」などについて考察を重ね、作品として表現することを目指しています。大学からは海が近いこともあり「渚」をテーマにした作品の制作にも取り組んでいます。

秋美での学生生活はとても充実しています。大学院には年齢も国籍も、これまでの経歴も異なる多種多様な人たちが集まっていますので、日常の他愛もないおしゃべりの中にも幅広い学びがあります。また、同級生と授業後にキャッチボールをしたり、留学生の先輩と昼休みにバスケットをしたり、放課後の学部生たちの輪に入ってみんなでコーヒーを飲んだりといった楽しみもあります。体育館の裏で粘菌の観察をすることもできます。

秋田は自然が豊かな場所です。お酒もご飯も美味しく、夜は静かで読書に没頭できます。大学から家までの帰り道で色鮮やかな雄雉と遭遇することもあります。こうした恵まれた環境の中でさまざまな人と出会いながら、日々学びを深め、制作や研究に取り組んでいます。



坂口 聖英
MASAHIDE SAKAGUCHI
(修士課程1年生)
立命館大学 映像学部映像学科卒業

「地域に擬態する」
アートプロジェクトの可能性



オルタナス

修士課程では、地域におけるアートプロジェクトのあり方について研究しています。学部時代には、フィールドワークを通じて、ある場所の不在性を現すインスタレーション作品を制作していました。その時、地域に住む人々との交流に面白さを感じたのですが、展覧会など「アート」的な言葉を掲げた途端、美術関係者しか来なくなる状況にどこかもどかしさを感じていました。そこで、様々な専門性を持つ人たちが偶然出会える場所、アート作品の鑑賞者が表現を始めることを促せる空間に興味を持ち、大学院への進学を決めました。

現在は、『「地域に擬態する」アートプロジェクトの可能性について』という研究テーマで、地域におけるアートプロジェクトのあり方について研究しています。『「地域に擬態する」アートプロジェクト』とは、私が新たに定義付けていきたいと思っている言葉です。これは、地域の基盤にある構造や歪みを観察しながら、アート活動と名乗らず、そこに擬態するように場所を構えて活動しているアートプロジェクトを指しています。現在、事例として調査している場所では、場に居合わせた人たち、特に「表現」の訓練をしていない関与者が「表現」を始めるという出来事が珍しくなく、そこに興味を持っています。

これまで、秋田市内にオルタナティブスペース「オルタナス」を立ち上げたり、作品を制作したりと、かなり自由に活動してきました。この大学院は、他大学出身の専門性の高い同期が近くにいる環境と、ひとりで考える時間が多くあるので、技術面というよりは自分の活動における核を深めていける場所だと思います。内部進学者である私は当初、特質した専門がないことがコンプレックスだったのですが、自由に活動していく中で、最近それも悪くないと思えるようになってきました。修了後も、アートマネージャーやアーティスト、スペース運営者など立場に縛られずに、その時々に必要な肩書を持って活動して行けたらと思っています。



谷口 茉優
MAYU TANIGUCHI
(修士課程2年生)
秋田公立美術大学 美術学部 美術学科
ビジュアルアーツ専攻卒業

異なる専門性との
領域複合



アーティスト・イン・レジデンスでの活動

博士課程では、サウンドスケープを捉える身体性を着目した実践研究に取り組んでいます。サウンドスケープとは、日本語で「音風景」と訳される造語で、音を単体で個別に対象化するのではなく、ひとつの総体＝風景として捉え直そうとする学際的な研究領域です。目で見ることのできない音の風景をどのようにして私たちは知覚認識しているのか。様々な研究領域の専門家たちがそれぞれの視点から考察を深めてきましたが、これらの領域を複合した研究は見られません。

進学前は東京を拠点として、都市部の人工的な音を対象に工学メディア領域から研究を進めていましたが、秋田には自然豊かな風景が広がっているので、生物や非生物が発する音にも注目した環境芸術や人類学の領域から研究にも取り組んでいます。人工と自然、騒音と楽音、文化や社会など、研究領域の違いによって二項対立する既往研究の垣根を越えて、音そのものを取り扱う新たな研究領域の創造に挑戦しています。昨年度に投稿した学会論文では、自身の音響表現について「音楽的聴取」という概念を用いて捉え直し、表現者と鑑賞者の聴取のあり方について考察しました。今は、作品を表現することとその鑑賞体験の分析を通じて、「音」と「聴取」に関する考察を深めているところです。

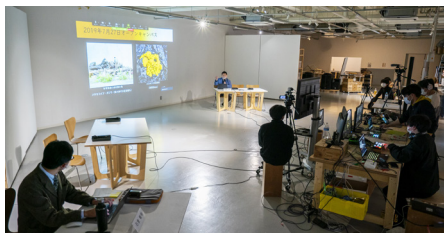
本学の博士課程の特徴の一つとして、「複合芸術研究会」という取り組みがあります。本研究会は、博士課程に在籍する学生の研究・作品発表を起点としながら、研究科教員を交えて討論を重ねていき、それぞれの研究に新たな視座を獲得していくことを目的としています。現在、環境芸術、哲学、仏教、社会学、映像人類学などを専門とする学生が在籍しており、現代美術や芸術といった共通言語を介して、各々が領域横断的な「複合」の在り方を模索しています。最終的には、各研究テーマの接合点を導き出し、展覧会やシンポジウムなど外部に向けた研究発表を予定しているので、どのような形になるのか今から楽しみです。



宮本 一行
KAZUYUKI MIYAMOTO
(博士課程3年生)
武蔵野美術大学大学院 造形研究科
デザイン専攻映像コース 修士課程修了

学ぶ時間, 創る空間

東北・秋田を拠点として実践する多様な研究活動を支える, 制作と情報発信の環境。



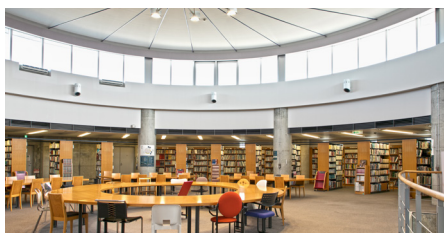
GIS(大型多用途スタジオ) | 作品展示, 研究発表, トークイベント, ワークショップなどの用途に対応する大型スタジオです。多様なメディア表現の目的に対応する様々な映像音響機材を有しています。GISは24時間アクセス可能です。| 大学院棟



GIS(制作スペース) | 多用途スタジオに隣接して, 大型立体作品に対応する制作スペースも備えています。併設する木工・金工の工作室を活用して, 常時複数の院生により作品制作がおこなわれています。| 大学院棟



院生室 | 大学院生には個人のスペースが貸与されます。またプリンタ等の出力機器と授業やミーティングに対応する共有スペースを用意しています。図書館やラウンジを併設し, 24時間出入り可能のため, いつでも研究に打ち込めます。



大学附属図書館 | アート・工芸・デザイン関係の幅広い文献, 雑誌や新聞, 映像資料に各種データベース等, 様々な蔵書が充実しています。美術関連のみならず, 幅広い個人の研究志向に合わせ, 新たな分野の書籍の収集や蔵書の購入もサポートしています。| 関連施設



アライエチノ・新屋NINO | 新屋地域の方々よりお借りしている「空き家」を活用した多用途スペースです。作品発表や自主企画のライブイベント, 講演, アーティストインレジデンスでのゲスト宿泊など, キャンパスの近隣地域で様々な実践が可能です。| 関連施設



BIYONG POINT(ビヨンポイント) | CNA秋田ケーブルテレビと大学が運営するホワイトキューブギャラリーです。実験的な展覧会やプロジェクトの企画を進めるとともに, 多くの人々に, よりアートに親しんでいただくエデュケーション・プログラムも実践しています。| 関連施設



美大サテライトセンター | JR秋田駅西口のフォンテAKITA6階に位置し, 教員や学生の研究・制作の成果発表の場であり, 広報の機能も担っています。ギャラリーコーナーでは教員や学生によるさまざまな分野の取り組みを展覧会形式で発表し, デッサンルームでは大学の公開講座やデッサンスクール, 中高生対象の素描Labなども開催しています。| 関連施設



国際交流センター | 国際協定校を中心とする海外の研究教育機関や文化組織などとの人物交流や, 教員・学生による海外でのプロジェクト実践, 作品発表, 研究活動を支援します。また, メキシコやインド, スイス, 南アフリカ等の美術大学の学生たちと数週間に渡り共通テーマで議論を交わす「オクトーバー・スクール」にも参加しています。| 関連センター



アーツセンターあきた | 秋田公立美術大学が設立したNPO法人。多彩な教授陣が展開する数々のプロジェクトや研究成果などの美大のリソースと地域を繋げ, アートやデザインを用いた新たなプロジェクトに取り組んでいます。2021年3月からは「秋田市文化創造館」の管理運営も行なっています。| 関連センター

複合芸術論および複合芸術演習担当教員



岸 健太 (研究科長)
KENTA KISHI (DEAN)
アーバン・スタディーズ



白杉 悦雄
ETSUO SHIRASUGI
比較文化学/文化史
*2022年3月退職予定



今中 隆介
RYUSUKE IMANAKA
プロダクトデザイン



萩原 健一
KENICHI HAGIHARA
映像メディア



小田 英之
HIDEYUKI ODA
ビジュアルアート
*2022年3月退職予定



藤 浩志
HIROSHI FUJI
アートプロジェクト



飯倉 宏治
KOJI IIGURA
情報科学



唐澤 太輔
TAISUKE KARASAWA
哲学/文化人類学



尾登 誠一
SEIICHI ONOBORI
ソーシャルデザイン
*2022年3月退職予定



岩井 成昭
SHIGEAKI IWAI
複合芸術トライアル



石倉 敏明
TOSHIAKI ISHIKURA
芸術人類学/神話学



服部 浩之
HIROYUKI HATTORI
2021年度特任准教授
アジア現代美術/キュラトリアル・プラクティス

*より幅広い研究領域をサポートできるように, 本学全教員が「特別研究 I,II」, 「複合芸術実習」を担当します。秋田公立美術大学教員についてはWEBサイト内の学部各専攻・センターのページをご参照ください。

修士課程（定員：10名 一般推薦, 第1期募集, 第2期募集の合計とする）

一般推薦

出願期間：2021年7月20日（火）～7月28日（水）

試験日程：2021年9月4日（土）

合格発表：2021年9月9日（木）

選考方法：面接（オンライン）

第1期募集

出願期間：2021年10月6日（水）～10月13日（水）

試験日程：2021年11月6日（土）

合格発表：2021年11月17日（水）

選考方法：書類審査・グループディスカッション・面接（オンライン）

第2期募集

出願期間：2022年2月1日（火）～2月8日（火）

試験日程：2022年3月5日（土）

合格発表：2022年3月10日（木）

選考方法：書類審査・記述試験・面接

博士課程（定員：2名）

一般選抜

出願期間：2021年10月6日（水）～10月13日（水）

試験日程：2021年11月6日（土）

合格発表：2021年11月17日（水）

選考方法：書類審査・面接（オンライン）

*注意：新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、上記実施方法とは異なる方法で選抜を行う場合がありますので、最新の情報は大学院WEBサイトをご確認ください。

1. 大学へ直接請求する場合

返信用封筒（角形2号）にご自分の郵便番号・住所、氏名を明記の上、下記の郵送料分の切手を添付し、請求表示（大学院出願書類請求「修士課程」「博士課程」の別を記載）を朱書きした大学宛の封筒に入れ、下記請求先までお送りください。

郵送料：出願書類のみ 180円

申込先：〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3 秋田公立美術大学事務局 学生課宛

2. 窓口で直接入手する場合

本学キャンパス内の事務局学生課で配付していますので、直接お越しください。

受付時間：8:30～17:15 月曜日～金曜日（土日祝日・年末年始は除く）

入試に関するお問い合わせ

〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3 秋田公立美術大学 事務局学生課

TEL: 018-888-8105 | MAIL: kyomu@akibi.ac.jp

詳細は大学院HPをご覧ください。(www.akibi.ac.jp/daigakuin/)

INFORMATION

進学相談会 WEBオープンキャンパス

2021年度のオープンキャンパスは、特設WEBサイトにてオンライン開催します。URL等の詳しい案内は本学WEBサイトで告知します。

このオープンキャンパスでは、オンラインでの「進学相談会」を開催します。制作・研究および学生生活についての相談、入試やカリキュラムについての質問に、大学院教員が対応して回答します。みなさまのご参加をお待ちしています。

秋田公立美術大学卒業・修了展2022

2022年2月中旬に「秋田公立美術大学卒業・修了展2022」を開催予定です。多様な修士研究をはじめ、ゲストを招いたトークイベントや学生企画によるイベント・パフォーマンスなどを予定しています。大学院の公式サイトで公開していきますので、詳しい情報はそちらをご参照ください。

上記のイベント開催は新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、日程を変更数する可能性があります。本学WEBサイトにて最新情報をご確認ください。



Facebook: @grad.akibi

Twitter: @AkibiGrad

Instagram: @akibigrad



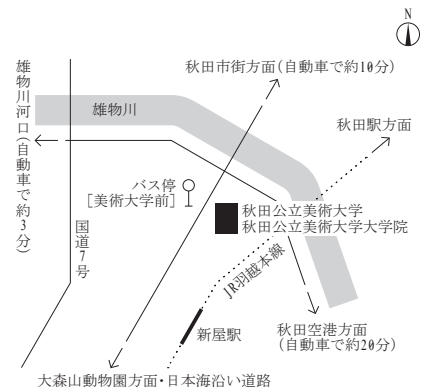
ACCESS

JR「秋田駅」から羽越本線「新屋駅」下車 新屋駅から徒歩15分
JR「秋田駅」から秋田中央交通バス 新屋線「美術大学前」下車 徒歩1分

秋田新幹線 東京駅……秋田駅 3時間49分

飛行機 羽田空港……秋田空港 65分
伊丹空港……秋田空港 80分
中部国際空港……秋田空港 85分
新千歳空港……秋田空港 55分

秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科
〒010-1632 秋田県秋田市新屋大川町12-3
TEL: 018-888-8105 | WEB: www.akibi.ac.jp/daigakuin/



遠く隔てられたもの達を引き寄せ結ぶ力とはなにか？ (岸 健太)

自分の新しい可能性について、純粹に、強かに、開くことができますか？ (藤 浩志)

汚い床におちまけてしまったスープを全て鍋に戻す方法は本当にないのか？ (小田 英之)

圧倒的な他者視点の先に視えてくるこれからの世界とは？ (今中 陸介)

死生も愛知やぬふりなるのか？ (飯倉 宏浩)

未来と複合することは可能である。では今、どのような未来と複合すべきと考えるか答えよ。(小田 英之)

この土地で何をするのか？ (萩原 健一)

アートにとって性とは何者？ (萩原 健一)

あるいは、どうして日本の美大って、男性教員ばかりなのでしょう？ (石倉 敏明)

生命そのものだから。(松尾 大聖)

だが、韓民校のしじらと醜への。かひなし。(尾登 誠一)

自分地図は描けてますか？ (尾登 誠一)

秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科
GRADUATE SCHOOL OF TRANSDISCIPLINARY ARTS, AKITA UNIVERSITY OF ART

